

離島の半島化と移住 -周防大島町を中心に-

入会申請中 筑波大学 * 岩政 大樹 IWAMASA Daiki
05001500 立正大学 櫻井 一宏 SAKURAI Katsuhiko
05001455 筑波大学 川辺 怜 KAWANABE Ren
01009480 筑波大学 大澤 義明 OHSAWA Yoshiaki

1. 背景と目的

周防大島町は山口県南東部に位置し (図 1), 人口は 14,798 人 (令和 2 年国勢調査), 1995 年の 15 歳未満と 65 歳以上の人口比率が 1:4 であった. これは 2065 年の日本全国の年齢構成予測と同水準であり, 現在から 45 年後の日本の人口の年齢構成が既に 25 年前に同町で現実化されている.

本稿では, かつて水運で栄えたこの地域の課題を整理し, 交通データ, 移住者ヒアリング, 転入出データ分析により現時点での移住状況を把握する. 特に, 橋梁建設 (図 2) により本土と実質的に陸続きになることで離島から半島化した影響を見る (図 3). 観光による交通流動性から観光交通計画の必要性を示した [1], 高齢者通所介護施設の配置問題や介護サービスを論じた [2] など, 周防大島や瀬戸内離島に関する研究もあるが, 本研究のよ

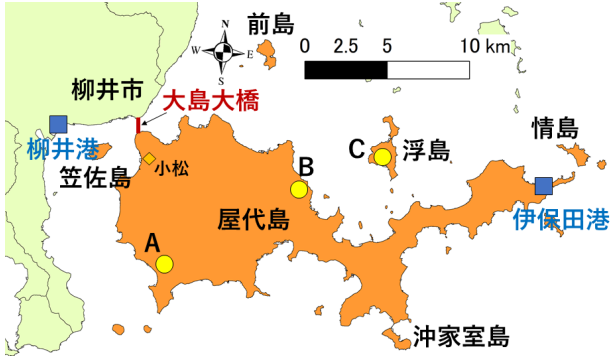


図 1: 周防大島町の各島と大島大橋の位置



図 2: 大島大橋



図 3: 小松地区

表 1: ヒアリング対象者

対象者	居住場所	職業	居住歴	前住所	ヒアリング実施日
A	屋代島	元教師	40 年	大島町	2021/7/20
B	屋代島	会社経営	15 年	世田谷区	2021/7/1,7/18
C	浮島	漁師	2 年	横浜市	2021/6/17,7/15

うな現時点での移住に着眼したデータ分析研究は見当たらない.

2. 半島化による交通変化

離島である周防大島町では, 1976 年, 屋代島と柳井市間に大島大橋 (図 2) が架けられ半島化された. 図 4 には 1980 年以降の (1) 周防大島町人口, (2) 大島大橋の平日自動車交通量 (12 時間), (3) 愛媛県三津浜港と周防大島の伊保田港および柳井港とを結ぶ航路の船舶乗降人員数の三点の推移を示す. 人口減少しているが, 島内の陸路交通量が増え, 架橋時の普通自動車片道 620 円が無料化された 1996 年以降, 特に増加している. 一方, 大島大橋開通以降の船舶乗降人員数は減少し, 交通が海路から陸路へシフトしたことを数値で示せた.

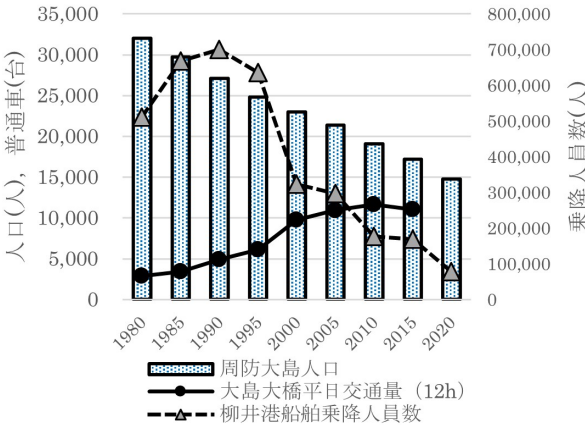


図 4: 周防大島人口, 大橋交通量, 船舶乗降客数

3. 島内の脆弱性

表 1 に示す, 地元住民 3 名へヒアリングを実施した. 対象者は図 1 の A, B, C に居住している. 居住歴 40 年の A 氏は, 架橋が本土アクセスを容易くさせ, フェリーから自動車利用となった, 買い物先が柳井市など山陽本線沿線地域へ移り, 図 3 の地元商店街などが衰退した, 良好な教育環境や利便性を求め島外移住が増加したことを挙げた. 移住 15 年の B 氏は, 職住近接の生活で不自由はないが, 子どもや高齢者が交通難民になる点を課

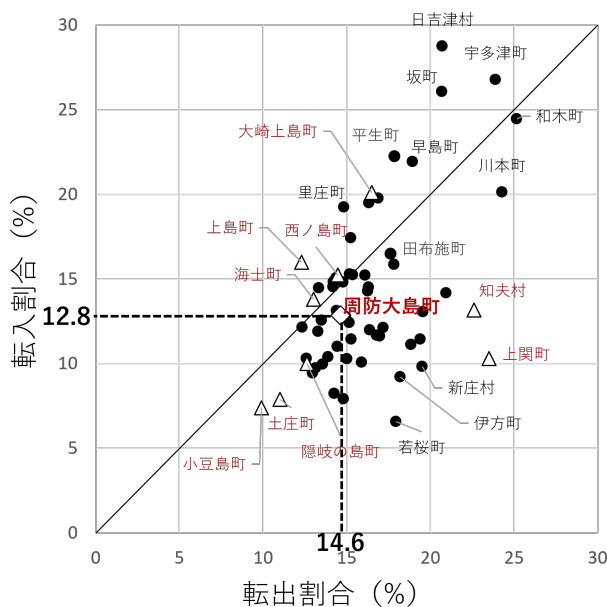


図 5: 「近隣」に対する転入出入口

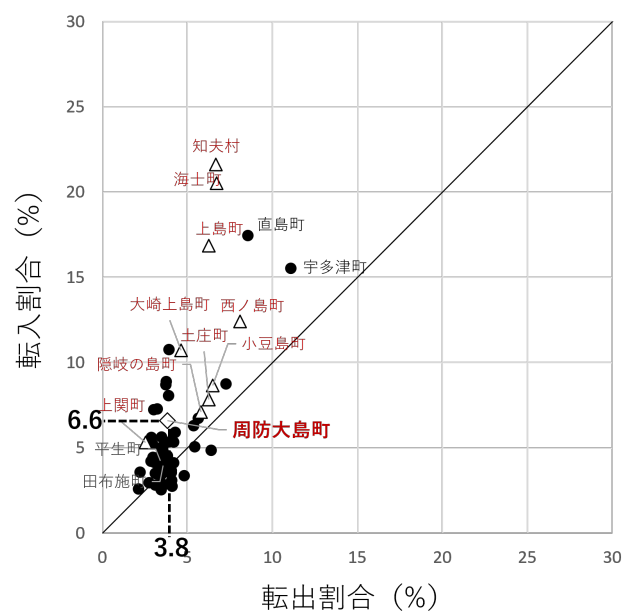


図 6: 「遠方」に対する転入出入口

題とした。移住 2 年の漁師 C 氏は、医療の充実で精神的に豊かな生活だが、漁獲量が不安定であり今後の生業に不安がある。

以上より、半島化により本土へのアクセスが改善されたが、島内の自動車中心の交通や一次産業主体の経済という脆弱性が指摘された。

4. 瀬戸内島嶼地域の移住

周防大島町を含む中国地方の 7 県 144 市町村のうち人口 2 万人未満の 65 市町村の人口転入出の分析を行う。国勢調査の 2005 年から 2015 年の市町村別転入出データを用いる。離島での住民転出の動向から移住の状況を解析する。

図 5 および図 6 では、縦軸を「2005 年から 10 年間転入者総数を 2015 年人口で除した割合」、横軸を「2005 年から 10 年間転出者総数を 2015 年人口で除した割合」としてプロットした。市町村を示す各点が原点に近いほど流動性が低く、離れるほど流動性は高い。また、45 度線の左上にある市町村は転入超過（転入数＞転出数）となり、右下にある市町村は転出超過（転入数＜転出数）となる。図 5 で示す近隣では、市町村が属する県とその隣接県との転入出を示す。一方で、図 6 の遠方では近隣を除く自治体への転入出を示す。それぞれの結果を図 5 と図 6 に示す。三角形は人口の 10 % 以上が離島に住んでいる市町村、丸形はそれ以外の市町村、周防大島町をダイヤモンドで示す。

これらの図から次の三点が読み取れる。第一に、離島の市町村は図 5 では原点に近く図 6 では遠い。従って、近隣に対しての流動性が低く、遠方に対し流動性が比較的高い。第二に、図 5 では 45 度線の右下、図 6 では左上に位置している。つまり、近隣への転出超過だが、遠方では転入超過となっている。最後に、両図から、半島化された周防大島は離島とその他地域の特性の両面を保持している。

5. まとめ

本稿では第一に、架橋による半島化は水路から陸路への交通転換をもたらし、生活圏拡大に貢献したが、島内の交通や経済に定住促進の課題を有することを示した。第二に、周防大島を含め瀬戸内の離島は他地域と比べて近隣より遠方への流動性は高く、近隣へ転出、遠方から転入する傾向があることを示した。

以上より、交通環境の整備、公共施設共有化等の島内外との広域連携などのオンサイト対策、遠隔医療や遠隔教育の拡充など離島ファンの背中を押せるオンライン対策が不可欠であろう。

参考文献

- [1] 高橋昂輝 (2020) : 山口県周防大島町における観光の特徴と架橋を介した交通流動, 香川大学経済論叢, 92(4), 259-297.
- [2] 中国真人, 三島幸子, 山本幸子, 孔相権 (2019) : 周防大島町における自治体による小規模高齢者通所介護施設の整備効果 - 島嶼地域における高齢者通所介護施設の配置計画論 -, 日本建築学会計画系論文集 (764), 2065-2075.